

# 令和2年度第1回森町行財政改革推進委員会 委員意見要旨

## 1 開催日時

令和2年11月17日（火） 19:00～20:59

## 2 議事及び事務局説明事項

### (1) 第3次森町行財政改革プランの進行管理について

主な項目の成果指標の実績、成果指標の目標を更新したものについて説明

## 3 委員意見要旨

- 子育て世帯に町に来てもらうには、子どもが通いやすい授業等の面倒を見てもらえる学習塾みたいなものなど子育て世帯にとってのインセンティブが必要。
- 人を増やすためにはやはりいろいろな手当を駆使して、魅力ある森町、森町に来ると得をするという取り組みを全面的に発してもらいたい。
- 観光協会のホームページの閲覧数はとても伸びていてとても良いけれども、そこから実際の交流人口増加につながっているのか検証できていない気がする。交流人口とホームページの閲覧の相関を検証していただきたい。
- 森町にとって、歴史や小京都をPRするのは絶対あっていると思うが、歴史を大切にすることに加えて、IT化、スマート化をミックスさせた取り組みが必要。
- “遠州の小京都”と銘打ってのPR発信の取り組みも、実際は個々の場所に行き帰ってしまう。観光施設として魅力的なものがあるが、点のみとなっているのでは、この点を線で結ぶような取り組みがPRに加えて重要ではないか。また、行政がどんどんやってしまうと直接取り組んでいる人たちとの連携ができない。実際にやっている地域や人たちを取り込むことが大切。
- 森町は東京からも名古屋からも近く新東名高速道路もあり、観光で来る人もメリットがすごく有ると思うが、あまり知られていないのではないか。こうしたメリットを東京や名古屋の人にもっと知らせて来てもらってはどうか。
- 企業誘致に関し、開発調査件数が目標に対して0は課題である。候補地を調査することはとても重要であり、計画的に調査を進めてもらいたい。
- 町外から来ている社員の子どもの小学校に進学した時に家を建てる可能性が高く、この子どもたちが森町内の幼稚園や保育園等に入れれば、小学校に上がる時くらいに同じ保育所に入っていた人たちと町に住みたいという子どもがいると思う。それを上手く活用すると自然と人口増加につながるのでは。他市から来てい

- る子どもたちを町内の保育所に通所させることで、住居を構える動機付けになる。
- 企業誘致をするのだったら、保育園や幼児教育ができるところをセットで整えると企業誘致がやりやすいのではないか。また、病児保育ができる保育園など受け入れ先があるということは、新たな森町の魅力になるのではないか。
  - 近年、発達障害をお持ちのお子さんが早期に発見され増加している。こうしたお子さんをカバーできる対策も、町の人口を維持するために心掛けて対策をしなければならない。
  - 無償化により保育園にどんどん子どもが行ってしまい幼稚園児が少なくなっていると聞いている。保育園の機能を持った幼稚園や幼稚園の統廃合を検討する必要があるのでは。
  - コロナ禍でマイナスのことばかり考えてもしょうが無い、コロナ禍で有利なことは何かないか考え取り入れてもらいたい。
  - 具体的な方策項目が50項目あるが、全部をやらないと達成できないのか。住民サービスを維持するためにはフロント、住民の方に接する部門に人的資源を重点に持って行った方がよい。また、限られた人的資源を集中できる部分は機械で処理し、政策実現のために総務的な企画的なことをやる人たちがのびのびと施策をできるようなどころなど、場合によってはもう少し見直すことも考えられるのでは。
  - 成果指標の目標に対して、一方は達成しているが一方は未達成というものがある。これらを見ると本来達成したい目標に対する方策としての指標は達成しているが、本来目標が達成できていない。であれば、方策を再検討することやプラスで行うことを考える必要がある。
  - KPI達成している項目よりも、達成できていない項目へポイントを持って行き、メリハリを付けた進行管理が良いのでは。目標を上回っていて特に問題が無ければ特にコメントを書かなくても良いかもしれない。
  - 取り組み項目が沢山あるが、重点項目にメリハリを付け、各項目間のリンク、関連性を持たせるとわかりやすく取り組む課題がもっと明確化できるのではないか。

以上